

「終活」支援の活動本格化

札幌の二つの組織

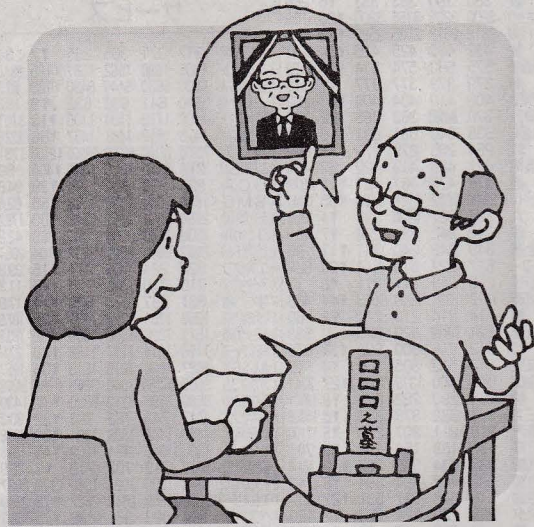
葬儀の手配など人生の終末のために必要な準備をする「終活」を支援する二つの組織が札幌で相次いで活動を本格化させている。少子高齢化を背景に、葬儀はしめお墓、遺言、生活支援など幅広い分野のサービスや相談を1カ所に対応しようとする例を紹介する。

(編集委員 福田淳一)

わたしの周りは

超高齢社会

昨年7月に設立、今年2月に活動を始めたのは、一般社団法人北日本ライフ保証協会(東京)



が全国に展開している組織の一環だ。

支援プランの基本は、自分の希望通りの葬儀を代行してもらう「マイ葬

応援バック」。危篤、訃報時の親族など関係者への連絡や、喪主として葬儀、遺品整理、納骨まで行うサービスだ。料金は契約

時手数料20万円(消費税別)がかかるほか、葬儀などの費用は別途、安全に管理するため信託会社に預けておく仕組みだ。

このほか、家計簿付け、重要書類の保管など生活関連サポートを行い、あらかじめ任意後見契約をして認知症などと診断された場合に後見人となり、「マイ葬応援」もす

葬儀、遺言…相談1カ所に対応

る「自宅生活応援バック」がある。さらに家族の代わりに老人ホームや高齢者住宅への入居時に保証人となり、生活関連、任意後見、「マイ葬応援」などのサポートも行う「施設入居応援バック」も用意している。

契約はまだ数件だが、北日本シルバーライフ協会の顧問尚美代表理事は「1人暮らしや夫婦2人だけの高齢者世帯が増え、特に「マイ葬応援」に関する問い合わせが目立ちます」と手応えを語る。問い合わせは同協会

☎011・242・0155へ。

一方、札幌市内で行政書士、葬儀業者らで活動しているのが、NPO法人終活支援センター。葬送のあり方を考える「現代北の葬儀研究会」の活動を母体として、昨年6月に発足、今年4月から終活に関するセミナー開催、相談受け付けなどの活動を始めた。

狙いは見守り、安否確認など生活サポートをほ

本人の希望に合ったプランも

じめ遺言、相続、葬儀、散骨、お墓など幅広い分野にまたがる「終活」を1カ所の窓口で相談できるサービスだ。

同センターは、独自のエンディングノート「私の終活ノート」を作製した。家族、友人へのメッセージはじめ、葬儀内容の希望、死亡時の連絡先などを記入できる。まずこのノートを普及し、終活への認識を深めてもらう考えた。

同センターの鈴木全明(すずき けんめい)副理事長は「終活に対する要望が多様化しており、最良の形態として1カ所ですむ窓口を目指したい」と話している。問い合わせは同センター☎

011・641・5060へ。
あすから展示、販売

NPO法人葬送を考える市民の会(札幌)は9、10日の午前10時〜午後4時、活動を紹介する展示「自分らしい旅立ち方を考えてみませんか?あなたの終活をサポートします」を札幌駅前通地下歩行空間出口3付近で開く。葬送に関するパネル、旅立ちの衣装、死に装束の展示のほか、会の活動を記録した本「わたちのお葬式」、エンディングノート「旅立ちノート」も販売する。問い合わせは同会☎011・261・6698へ。

お墓、遺品整理など体験談を募集

北海道新聞生活部は連載「わたしの周りは 超高齢社会」の第4部で、お葬式、お墓、遺品整理などをテーマにする予定です。これに関連する体験を募集します。心に残った思い出、疑問に思ったこと、後悔した実例などをお寄せください。住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵便かファクス、電子メールで北海道新聞生活部へ。宛先はこのページの右上にあります。